

在スロバキア日本国大使館
政治・経済月報（2015年4月）

目 次

内 政

- ◆パヴリス経済相の辞任 2
- ◆ヴァーホスタウ社再建問題 2

外 政

- ◆ブチッチ・セルビア首相のスロバキア訪問 2
- ◆ラヴロフ・ロシア外相のスロバキア訪問 3
- ◆V4国防相会合 3
- ◆ライチャーク外相のNPT再検討会議への出席 3

社 会

- ◆ロマ人の就業に対する偏見 3

経 済

- ◆イーストリングに関するトルコとの連携 4
- ◆矢崎総業における人員整理の可能性 4
- ◆フィツォ首相と伊Enel社CEOとの会談 4
- ◆スロバキア中央銀行月報（4月） 5

別添：主要経済指標

※本月報は公開情報を在スロバキア日本国大使館がとりまとめたものです。

内 政

◆パヴリス経済相の辞任（４月２２日付スメ紙）

パヴリス経済相は、清掃会社との癒着疑惑に関してフィツォ首相と協議した後、辞任の意向を明らかにした。同経済相は、昨年夏にマラティンスキー経済相に代わって就任していた。フィツォ首相に近い立場であると見なされており、本年１月に国家資産基金と係争中の港湾サービス会社Port Service社とパヴリス経済相との関係が取り沙汰され、野党が国会に同経済相の不信任決議案を提出した際には、フィツォ首相は同経済相をはっきりと擁護していた。（３０日、後任の経済相としてカジミール財務相が暫定的に経済相を兼任することが発表された。）

◆ヴァーホスタウ社再建問題

与党Smerの「スポンサー」と言われているシロキー氏が所有する大手建設会社ヴァーホスタウ社の債務が金融機関に対して１億３６００万ユーロ、下請け企業等に対して１億４００万ユーロに達した結果、裁判所の決定に基づき、昨年１０月から同社の再建策策定が行われていた。本年３月に入り、ヴァーホスタウ社が、担保を持つ金融機関に対しては債務の１００％、それ以外の債権者に対しては債務額の１５％のみを返済するとの方針を明らかにしたところ、同社が２０１０～２０１２年に政府から受注した３つの高速道路建設工事が不当に低い金額で落札したものではないかとの疑惑が浮上し、野党と共にフィツォ首相自らがヴァーホスタウ社の刑事責任追及に動き始めた。与野党は互いに政治責任を追及し、十分な債務返済を受けられない債権者の救済方法や来年３月の国会選挙をにらんだ動きにも絡んで大きな内政問題に発展している。

外 政

◆ブチッチ・セルビア首相のスロバキア訪問（４月２日）

フィツォ首相は、EU加盟に関心を有する国への支援がスロバキアの義務であることを訴えた。また、両首相は、コソボ問題についても協議を行い、フィツォ首相は、「セルビア・コソボ関係の動きを注視している。他方、セルビア及びスロバキアは、コソボに関する立場を変更する理由を有していない。我々はコソボの独立を承認する予定はない」と主張した。

ライチャーク外相とブチッチ首相の会談の主要テーマは、二国間の政治経済協力及びセルビアのEU加盟交渉の現状であった。ライチャーク外相は、「セルビアは加盟に向けた強い意志を示し、必要とされる改革措置を受け入れ、最初の政策分野に関する交渉を開始する準備ができている」と述べた。

◆ラヴロフ・ロシア外相のスロバキア訪問（４月４日）

ラヴロフ・ロシア外相は、フィツォ首相等と共にブラチスラバ解放７０周年式典に出席した。キスカ大統領は式典には同席しなかったが、ラヴロフ外相と個別に会談を行った。キスカ大統領は会談において、ブラチスラバ解放における赤軍の役割を高く評価し、ロシア国民、芸術及び文化に対するスロバキアの態度が前向きなものであることを伝えた。

ライチャーク外相とラヴロフ外相は、両国関係の他、ウクライナ危機の解決への展望等についても協議を行った。ライチャーク外相は、「現在、我々は欧州の平和と安定を脅かす危機に直面している。ウクライナ危機及びグローバルな問題の解決は、ロシア抜きには果たされないであろう。我々は、意見の相違が生じた場合には、話し合い、聞く努力が必要であることを強調している。ラヴロフ外相との会談もそれに沿ったものである」と述べた。

◆V４国防相会合（４月２３日）

グルヴァーチ国防相は、スロバキアのV４議長国の枠組でチェコ、ハンガリー及びポーランドの国防相を当地に招き会合を開催した。会合の主要テーマは、防衛協力に関する行動計画の策定、V４バトルグループの設置、訓練分野に関するV４戦略、越境地域間軍事行動等であった。V４各国は、特に領空の防衛に関する協力の推進を望んでおり、スロバキア及びチェコはすでに緊密な協力を進めている。また、スロバキアのレシュチにある訓練センターにおいて本年秋に実施予定の共同軍事訓練についても協議が行われた。会合の最後には、V４国防相による共同声明への署名が行われた。

◆ライチャーク外相のNPT再検討会議への出席（４月２７日）

ライチャーク外相は、ニューヨーク国連本部で開催した核兵器不拡散条約（NPT）再検討会議において演説を行った。同外相は、「この条約は国際的な平和、安全保障及び安定の維持と強化のための唯一無二の枠組である」と強調した。スロバキアは今回の再検討会議において副議長国を務めている。ライチャーク外相の演説は、核軍縮、核不拡散及び原子力エネルギーの平和利用というNPTの３つの要点のすべてに対するスロバキアの積極的参画を示すものであった。

社 会

◆ロマ人の就業に対する偏見（４月９日付スメ紙）

キスカ大統領は、企業がロマ人の雇用を望まない主な理由は偏見であると指摘した。ポプラト市所在企業のロシュコヴァー氏は、「ロマ人は、朝、仕事場

に行き、規則を守るという就業体制を知る必要がある。ロマ人の働く意欲を知った時に、他の従業員も彼らを受け入れる」と主張した。現在、ポプラトでは約100名のロマ人が就職している。雇用に際してしばしば見られる問題は、就労意識の欠如である。ロシュコヴァー氏は、「ロマ人が就労意識を獲得し、経済的に自立するために、彼らを雇用している」と述べた。

経 済

◆イーストリングに関するトルコとの連携（4月1日付プラウダ紙）

トルコは、アゼルバイジャンからトルコを経由して欧州に到達するトランスアナトリア・パイプライン（TANAP）の建設を開始した。TANAPがスロバキアのEustream社の計画するイーストリングと連結すれば、カスピ海産ガスをスロバキア経由で欧州諸国に輸送することが可能となる。トルコ経由のガス輸送を確保することで、ウクライナ経由のガス供給が減少した場合にも、トランジット手数料を損なう心配がなくなる。TANAPはカスピ海産ガスを4年後には南東欧地域に輸送する見込みである。Eustreamはすでにブルガリア、ルーマニア及びハンガリーとも協議を行っている。

◆矢崎総業における人員整理の可能性（4月8日付経済新聞）

矢崎総業ミハロウツェ工場は、約1000名の従業員との雇用契約の打ち切りを検討している。約4000名の新規雇用が見込まれる同社のルーマニア新工場がスロバキア東部の雇用状況を脅かしている。自動車産業における価格低下等の圧力が、スロバキアからの生産移管に影響を及ぼしている。矢崎総業は5年前にスロバキア西部プリエヴィザの工場を閉鎖しており、そこでは約1200名が職を失った。同社はミハロウツェを含むスロバキア東部全体で3200名以上の雇用を創出している。仮に3分の1が失業した場合、現在17%に上る地域の失業率は深刻なダメージを負うことになるであろう。

◆フィツォ首相と伊Enel社CEOとの会談（4月29日）

フィツォ首相は、スロバキア電力会社（SE）の最大株主である伊Enel社のスタラーチェCEOとの会談後、政府がSEにおける立場の強化を目的に同社との交渉を開始したことを明らかにした。フィツォ首相は、「政府の戦略的関心はモホウツェ原発3号基及び4号基の完成にある」と述べた。現在、モホウツェ原発増設は中欧における最大の投資の1つであり、電力生産におけるスロバキアの立場も強化する。政府はSE株式の保有割合を高めたいと考えており、フィツォ首相は、6月前半にEnel本社を訪問し、SE株式の取得及びモホウツェ増設に関する協議を行う予定であると述べた。

◆スロバキア中央銀行月報（４月）

1. GDP

2015年1月の売り上げの堅調な動きの後、2月の売り上げは更に加速して前期比3.2%増となった。鉱工業及び建設部門が売り上げ増加に最も大きく貢献した。他方、卸売及び小売部門は、引き続き売り上げ全体の伸びを鈍らせた。金属及び電機生産に加え、予測されていた自動車生産の回復も2月の鉱工業生産における前期比0.8%の伸びを後押しした。エネルギー供給も経済の加速に大きく貢献した。小売業の売り上げは前期比で停滞気味ではあるものの、第1四半期の個人消費は増加している。本年初頭から、自動車の販売及びサービスの売り上げに顕著な上昇が見られる。ホテル、飲食部門、そして、運輸部門の中でも特に鉄道における売り上げの増加が、小売の停滞の緩和に貢献した。

2. 雇用率及び賃金

2月の雇用率は前年同期比で1.2%上昇した。前月比の雇用率は約2.5%と2011年1月以降で最大の伸びを見せた。鉱工業部門、そして、ホテル、飲食、運輸及びIT通信等のサービス部門が2月の雇用率上昇に貢献した。3月も引き続き失業者数が減少した。季節調整前の登録ベースでの平均失業率は0.26%減の12.06%であった。特定部門における2月の平均賃金は前年同期比3%の伸びを示した。鉱工業部門のみが非常に強力な上昇基調を維持した。2月の平均名目賃金は791.7ユーロであった。

3. 物価

3月の消費者物価指数は2月の0.6%減という大きな下げ幅から反発し、前年同期比で0.4%減となり、前月比では0.2%とわずかに上昇した。2月から3月にかけての消費者物価指数の下落の鈍化には、特に前年同期比での食料品及び燃料の価格下落の緩和が影響を及ぼした。2015年には物価下落傾向の緩和が予測され、4月には前年同期比で0.3%減と更に下落の動きが落ち着く見込みである。

4. 貿易

2月の製品輸出は前期比3.9%、前年同期比0.7%増となった。鉱工業生産の統計と同様に、貿易統計にも好調な自動車産業の影響が見られた。2月の輸入は前年同期比2.5%増であった。2015年1月の貿易黒字は3億8800万ユーロであった。

（了）

スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

